

| | | チェック項目 | はい | どちらとも いえない | いいえ | 改善目標、工夫している点など |
|------------------|-------------------------------------|---|----|---------------|-----|---|
| 環境・ 体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか | ○ | | | |
| | 2 | 職員の配置数は適切であるか | ○ | | | 強度行動障害の研修修了者も配置しており、個別の対応が取れるような体制を整えている。また、作業療法士も配置し、専門的な支援も行っている。 |
| | 3 | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか | ○ | | | |
| 業務改善 | 4 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか | ○ | | | |
| | 5 | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか | ○ | | | |
| | 6 | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか | ○ | | | 令和4年2月にホームページにて公開。 |
| | 7 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか | | | ○ | 今後必要な時には選出していく。 |
| | 8 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか | ○ | | | はっぴいとLuanaとの合同で事業所内研修を行っている。今年もは新型コロナウイルスの影響もあって施設外の研修が少なかった分、法人内研修(zoomも含む)や外部研修に取り組みるように環境設定を行った。 |
| 適切な 支援の 提供 | 9 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか | ○ | | | |
| | 10 | 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか | ○ | | | 脳バランサーを導入し、言葉の読み聞きや空間認識、記憶力など様々な項目に取り組み、利用者一人ひとりの苦手・得意分野を把握し、個別療育に反映している。 |
| | 11 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか | ○ | | | |
| | 12 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか | ○ | | | 活動内容の記録を残すことで、振り返りをしながら活動内容を展開していった。 |
| | 13 | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか | ○ | | | コロナ禍に伴い外出の機会は減っているが、貸し切りや事前事後に消毒が出来る場所などへは長期休暇ならではの活動も取り入れている。 |
| | 14 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか | ○ | | | |
| | 15 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか | ○ | | | 必要に応じて、事前に活動計画書を作成し実施している。 |
| | 16 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか | | | ○ | 振り返りの時間はとっていないがその日の連絡事項や引継ぎなどは行っている。 |
| | 17 | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか | ○ | | | |
| | 18 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか | ○ | | | |
| 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか | ○ | | | | |

| | | | | | | | |
|--------------|--|--|---|---|---|------------------------|---|
| 関係機関や保護者との連携 | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか | ○ | | | 児童発達支援管理責任者が参加している。 | |
| | 21 | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか | ○ | | | | |
| | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか | | | ○ | | 今のところ利用者に対象児がない。 |
| | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか | ○ | | | | 児童発達支援事業所との連携に努めている。 |
| | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供しているか | | | ○ | | 小学生のみの事業所であるため該当しない。 |
| | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか | | | ○ | | |
| | 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか | | | ○ | | 今後の課題として検討していく。 |
| | 27 | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか | ○ | | | | |
| | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか | ○ | | | | 活動時の様子は各自スマートフォンまたはPCで確認してもらい、その他連絡や引継ぎが必要な場合は送迎時に伝えている。また、モニタリングの機会にも事業所と家での様子を共有しながら共通理解に努めている。 |
| 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか | | | ○ | | 相談のある保護者に対しては支援を行っている。 | |
| 保護者への説明責任等 | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか | ○ | | | | |
| | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか | ○ | | | | |
| | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか | | | ○ | | 今後必要に応じて検討していく。 |
| | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか | ○ | | | | |
| | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか | ○ | | | | メールや成長療育支援システム(HUG)を使用し、保護者に発信している。 |
| | 35 | 個人情報に十分注意しているか | ○ | | | | |
| | 36 | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか | ○ | | | | |
| | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか | | | ○ | | 今後の課題として検討していく。 |

| | | | | | | |
|---------|----|---|---|--|--|---|
| 非常時等の対応 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか | ○ | | | 今年度より各事業所から委員会を発足しマニュアルの見直しと周知徹底に努めている。 |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか | ○ | | | |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか | ○ | | | 今年度は法人内で虐待についての勉強会や事例などをもとにグループで考えたりする機会を設けた。 施設外の虐待防止の研修(ZOOM)も受けている。 |
| | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか | ○ | | | |
| | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか | ○ | | | 保護者から医師の指示を伝えてもらい、それに基づいて対応している。 |
| | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか | ○ | | | |